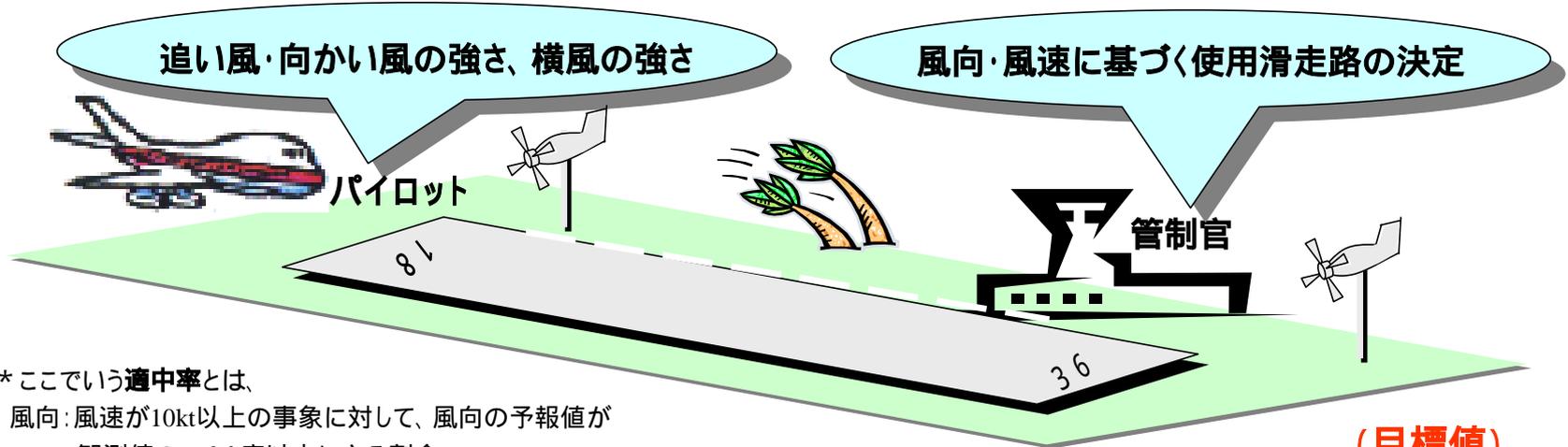


# 飛行場予報の精度 (飛行場の風向・風速予報の適中率)\*

航空機の安全運航のために

飛行場での風の予測は非常に重要!!



\*ここでいう適中率とは、

風向: 風速が10kt以上の事象に対して、風向の予報値が観測値の±30度以内に入る割合

風速: 風速の観測値が15kt以上の事象に対して、風速の予報値が観測値の±5kt以内に入る割合

風向  
風速

(成田、羽田、関西空港の各データで評価)

平成13年

14年

15年

16年

17年

20

66%

70%

73%

64%

69%

68%

予報精度向上

(目標値)

風向 2%up

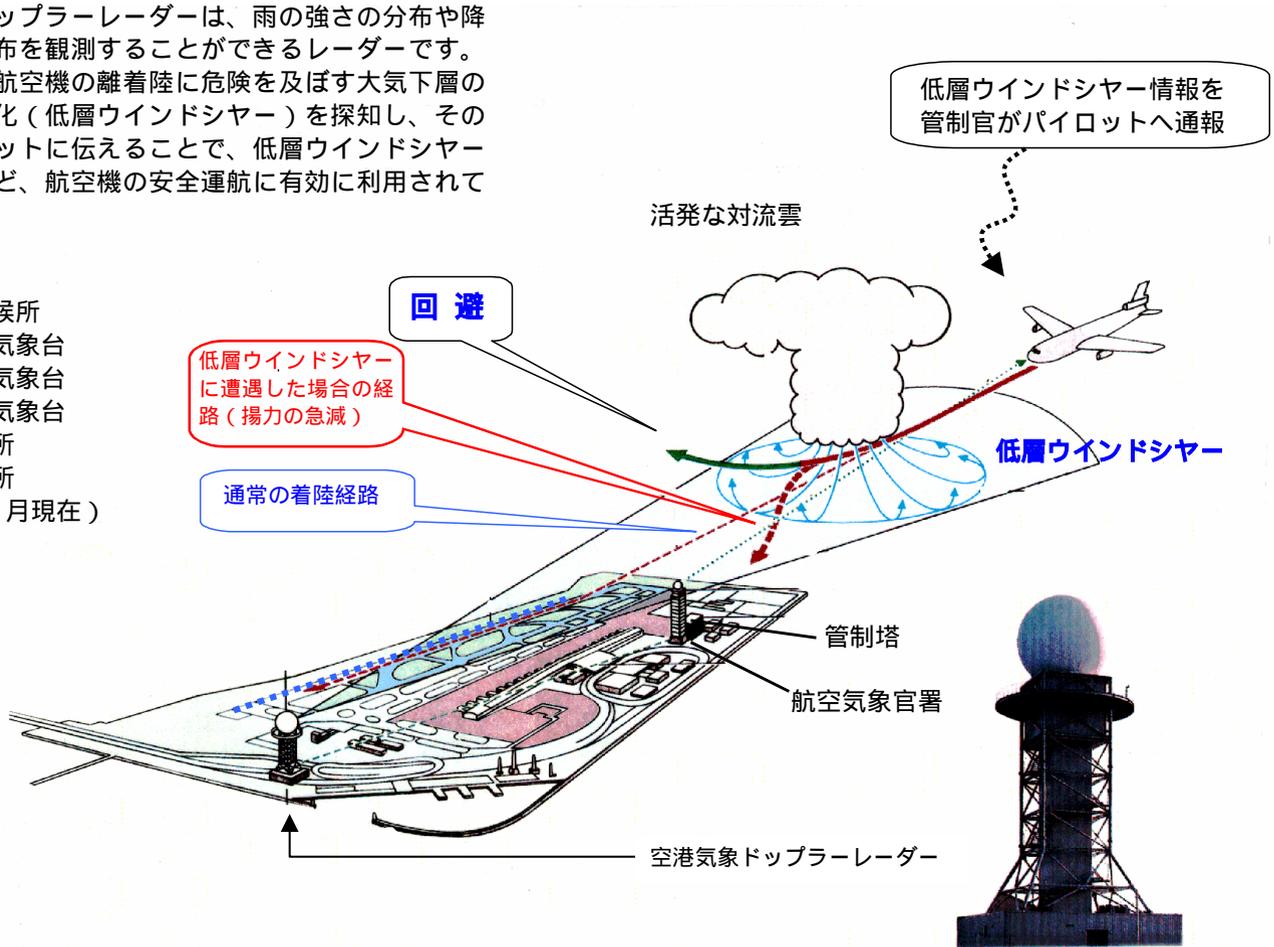
風速 3%up

# 空港気象ドップラーレーダーの整備

空港気象ドップラーレーダーは、雨の強さの分布や降水内の風の分布を観測することができるレーダーです。これにより、航空機の離着陸に危険を及ぼす大気下層の風の急激な変化（低層ウインドシアー）を探知し、その情報をパイロットに伝えることで、低層ウインドシアーを回避するなど、航空機の安全運航に有効に利用されています。

<設置官署>

新千歳航空測候所  
成田航空地方气象台  
東京航空地方气象台  
関西航空地方气象台  
大阪航空測候所  
那覇航空測候所  
(平成16年4月現在)



# 空港気象観測システムの整備

航空機の安全な離発着に不可欠な飛行場の風向風速、視程、雲底の高さ、雲量、大気現象（雨や雪）等の観測能力向上のため、平成11年度から空港気象観測システムを整備している。

これにより、従来よりも時間的にきめ細かな観測データを提供することが可能となり、運行の安全性の向上、定時制の確保、適切な飛行計画の策定等に活用されている。

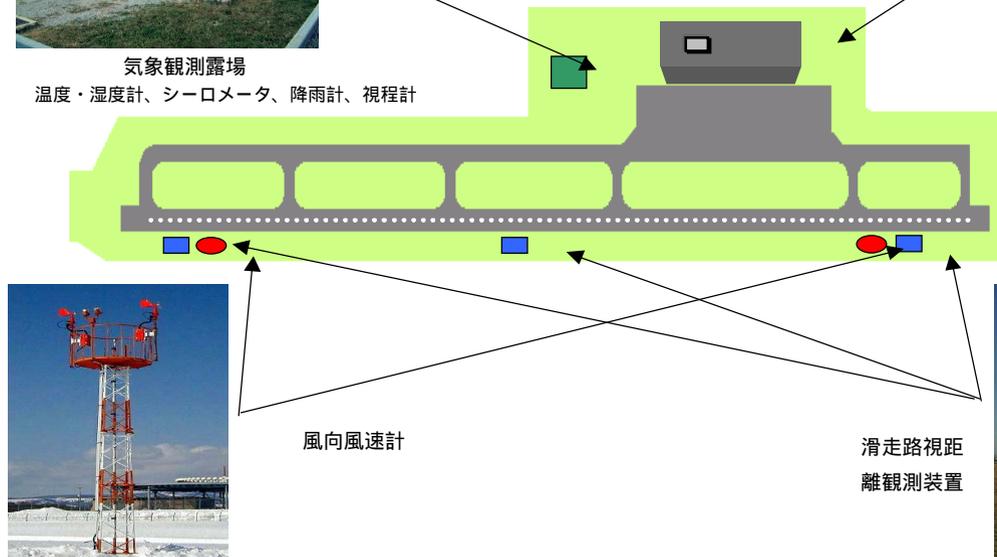


気象観測露場

温度・湿度計、シーロメータ、降雨計、視程計



観測現業室



風向風速計

滑走路視距離観測装置



（注：図の観測装置の配置や数はイメージであり、実際には空港毎に異なる。